

まち



富士まつりでデビューした
カラーガード隊 初代隊長

はやぶさのこ
早房徳子さん

東宮島(22歳)



カラーガード隊とは、元来は国旗などをカートするという役割から出発しましたが、今では、パレードの先頭で旗を持って進む女性のチームとして知られています。富士市のカラーガード隊は、消防音楽隊としては県下で初めて結成され、ことしの富士まつりで、

さつそうとデビューしました。早房さんは、その初代隊長。隊員は赤を基調としたコスチュームを身にまとい、総勢九人。チームの愛称は「フジ・レット・フェアリー」(富士の赤い妖精)といいます。消防音楽隊に属するとはいえ、昼間は仕事をもち、毎週木曜日の夜練習するというボランティア。行事があると日曜日もつぶれることがありますが、「自分の好きなことですからね」と、くりくりした目で笑う。ふだんは、幼児に「のりこせんせい」と呼ばれる幼稚園の先生です。「市民の皆さんに早く親しまれるようになりたい」との抱負。消防音楽隊のファンはぐつとふえることでしょう。

我がまちを語る



長谷川忠好さん

本市場(62歳)

祭りや行事に熱心
江戸時代、吉原宿と蒲原宿の間の宿として本市場宿ができ、駅北地区は東海道の沿線として発達しました。

昔は、農家が多く、戦前は梨畑も多く見られました。米之宮浅間神社周辺や川の土手には、竹が群生し、子供のころは竹とんぼや竹鉄砲などをつくり、よく遊んだものです。いまの子供たちは、遊び場が減ったという点ではかわいそうですね。国道一号線は一時、富士川橋から本市場まで車がつながるほど渋滞し、住民としては困りましたが、交通の便がよいというのは、やはり発展の原因でしょう。駅北の人々は、地域の祭りや行事に熱心で、世代間や住民間のギャップが少ないのが特徴だと思います。若い人たちの活躍で、まだまだ発展すると思います。



祭りは粋だよ
富士町拓栄会の皆さん



七宝焼でストレス解消
斉藤信子さん(富士町)



サクランボを植える
鈴木孝蔵さん(中島下)

「トントんチキチン」という甲子さんのおはやしが聞こえれば、駅北は真夏。ことしも八月四・五日、甲子祭が盛大に行われました。甲子祭を運営し、おはやしを伝承しているのは富士町拓栄会の皆さん。「祭りは粋」とばかり気風のよい人ばかりです。おはやしを習いたい子供は、町外からも受け付けています。

七宝焼は、焼くときの微妙な違いで、思った色がなかなか出ません。その辺が逆に魅力でもあります。が、斉藤さんにとっては「煩わしいことを忘れて没頭できるのが一番の魅力」とのこと。七宝焼はストレスの解消にも有効のようです。

下堀の浅間橋(米之宮浅間神社北側)から北を見ると、川端に咲くピンクのサクランボが、道行く人の心をなごませてくれます。鈴木孝蔵さんは、近所の人の協力を得て川ふちの雑草を抜き、三年がかりできれいな川辺をつくりました。「みんなが喜んでくれるのがうれしいね」と手入れに余念のない毎日です。

あの人の人こんなこと

